

令和元年度 行田こども園 自己評価分析と今後の課題

1. 対象者

保育職員 12 名（内訳：正規職員 8 名、パート職員 4 名）

2. 方法

「教育・保育の計画性」「教育・保育の在り方、幼児への対応」「保育の在り方、3歳未満児への対応」「保育者としての資質や能力・良識・適性」「保護者への対応・守秘義務」「地域の自然や社会との関わり」「保育者の専門性」の7つの大きな評価項目より、当法人の理念や方針を考慮して計106個の評価項目を作成した。（別紙参照）

3. 評価・分析方法

「1 よくできている」「2 まあまあできている」「3 あまりできていない」「4 まったくできていない」の4段階で回答を求めた。また、集計した回答について基本統計処理を行い、その結果をもとに園内研修にて話し合い、今後の課題について話し合った。

※対象者が少ないため、分析結果はあくまで傾向とする。

4. 結果

I. 教育・保育の計画性（1：58%，2：33%，3：8%，4：0%）

約90%の職員が、「よくできている」又は「まあまあできている」と評価した。

【課題】

- ①より子ども達が遊び込める時間と環境を確保するため、保育者がしっかりと環境を整えられるようにすること。また、子ども達が遊び込む楽しさを知る中で、時間を大切に使うという思いを持ち、メリハリのある生活が送れるようにしていくこと。
- ②教育・保育について、お互いの反省点や改善点、工夫した点などを情報共有していくための話し合いの時間を計画的に確保していくこと。

II. 教育・保育の在り方、幼児への対応（1：57%，2：37%，3：6%，4：0%）

約95%の職員が、「よくできている」又は「まあまあできている」と評価した。

【課題】

- ①「ダメ」や「～しなさい」など制止や禁止の言葉掛けが多くなってしまいがちだった。子どもが怪我をしまいそうな行動については、短く分かりやすい言葉で制止・禁止の声掛けを行っていく必要もあるが、基本的には、子ども自身が自分の感情と向かい合いコントロールしていける力を育めるよう、「どうするといいな？」など問いかけて見守ることを大切にしていく。
- ②一人ひとりの子ども達の気持ちを十分に汲み取りながら教育・保育が行えていなかった。子ども達一人ひとりが頑張っていることや一生懸命になっていることに気づき、声を掛け、その気持ちを大切に伸ばしていけるよう、関わっていく。

III. 保育の在り方、3歳未満児への対応（1：72%，2：25%，3：3%，4：0%）

97%の職員が「よくできている」又は「まあまあできている」と評価した。

【課題】

- ①子どもが泣いている理由に気付くことができなかった時があった。まずは子ども達一人ひとりとの信頼関係を深められるよう関わり、一人ひとりの性格や発達段階を理解した上で子どもの目線に立ちながら気

持ちに寄り添って関わっていく。

- ②子ども達のやりたい気持ちややることに対して、うまく語り掛けることができないことがあった。複数担任だからこそ職員間で連携が取れるよう声掛けし、安全確保をした上で子どもが行きたいこと・やりたいことができるように環境を整えていく。

IV. 保育者としての資質や能力・良識・適性（1. 58%, 2:39%, 3:3%, 4:0%）

97%の職員が「よくできている」又は「まあまあできている」と評価した。

【課題】

- ①保護者に園での子どもの姿を伝えきれていないことがあった。子どもの健やかな成長を支えるために、園での子どもの様子を伝える中で、今子ども自身が抱えている課題等も伝え、家庭での様子などもしっかり情報共有しながら、協力して関わっていけるよう話をしていく。
- ②子どもの手本となれるよう、日々の自分の言動を振り返り、改善をしていく。

V. 保護者への対応・守秘義務（1. 72%, 2:25%, 3:3%, 4. 0%）

97%の職員が「よくできている」又は「まあまあできている」と評価した。

【課題】

- ①新年度に入る前に、各家庭の家族構成や健康状況等、書類や前担任との引継ぎを通して、一人ひとりの家庭の状況把握に努めていたが、不十分なところがあったので、今後はより深く子どもの理解をした上で新年度を迎えられるよう、引継ぎを丁寧に行っていく。そして、その上で、保護者とのコミュニケーションを通して、子ども理解と親支援を適切に行っていく。
- ②バス通園児の保護者への対応が不十分だった。お手帳を通して子どもの様子を伝えるだけでなく、必要に応じて保護者に来園してもらい、直接コミュニケーションをとることができるようにしていく。

VI. 地域の自然や社会との関わり（1. 63%, 2:28%, 3:9%, 4. 0%）

約90%の職員が、「よくできている」又は「まあまあできている」と評価した。

【課題】

- ①収穫した野菜でクッキングをする頻度が少なかった。食育の一環として、実際に野菜嫌いの子どもが自分で収穫した野菜だと食べようと挑戦する意欲が出たり、「美味しい」といって食べたりする姿があることから、次年度よりクッキングがより日常に感じられるように、環境を整えていく。

VII. 保育者の専門性に関する研修・研究への意欲・態度（1:60%, 2:32%, 3:8%, 4:0%）

約90%の職員が、「よくできている」又は「まあまあできている」と評価した。

【課題】

- ①日々の教育・保育の中で自身の課題と向き合い、保育者としての専門性を高め続ける努力をしていく。常に学ぶ姿勢を持ち続ける。
- ②園にある玩具や教材、遊具についてその特徴や正しい使い方について職員間で情報共有ができているか再度確認する。